

平成27年 丹波市10大ニュース

	タイトル及び説明
1	復旧復興へ心つなぐ1年（丹波市豪雨災害） 平成26年8月の丹波市豪雨災害から「心つなぐ」を合言葉に復旧復興に取り組み、1年が経過した。 夢ある地域の未来実現をめざした丹波市復興プランの策定や国道175号八日市橋の開通、砂防えん堤、治山ダムを整備促進をはじめ、道路・河川等の社会基盤の復旧工事を本格的に着手した。 また平成27年8月には、「復興に向け1年 心つなぐ2days 和一处」をライフピアいちじまで開催し、当時を振り返りながらこれまでの支援に対する感謝を表するとともに、復興へ向けたさらなる取り組みの契機とした。
2	感謝と新たな誓い～丹波市制施行10周年記念式典～ 平成16年11月1日発足以降、丹波市は市民とともにたゆまぬ努力と知恵を重ね、その歩みを進めてきた。 とりわけ丹波市豪雨災害では大変な難局に直面したが、全国からのあたたかい支援を受けながら創造的復興に取り組み、今日を迎えている。 平成26年11月に予定していた「丹波市制施行10周年記念式典」を1年後の平成27年11月1日に開催することにより、これまでを振り返り感謝するとともに未来に向かって夢を育む新たな誓いの契機となった。 あわせて市制10年を振り返り、これまで取り組んできた施策や事業の足跡を次代に引き継ぎ、郷土に対する理解を深め、今後の市の発展につながることを目的に丹波市誌を編さんした。
3	丹波市クリーンセンター「クリーンパーク丹波」オープン 平成27年4月から一般廃棄物処理施設の丹波市クリーンセンター[愛称：クリーンパーク丹波]が稼働した。 この施設は、熱回収・リサイクル施設に加えて、ごみの減量化や再生利用に関する様々なリサイクル教室が体験できる啓発施設があり、「安全・安心の施設」「循環型社会の形成に寄与する施設」「地域と共生する施設」、この3つの理念を基本に、広く市民に愛され親しまれる施設を目指している。
4	丹波市立看護専門学校開校 4月1日、兵庫県立柏原看護専門学校が兵庫県から移管を受け、丹波市立看護専門学校として新たに開校した。 県立の伝統を受け継ぎ、この丹波の地で、看護師として必要な高度な知識と技術を教え、他者への思いやりの“こころ”をはぐくみ、生涯にわたり看護を追求できる専門職業人を育てる学校として運営に取り組んでいく。
5	旧氷上高等小学校校舎がたんば黎明館にリニューアル 明治18年に高等小学校校舎として建設され、郡立柏原病院、柏原高等女学校など変遷の後、昭和56年から平成18年まで大手会館として生涯学習施設の役割を果たしてきた。 平成21年3月24日に兵庫県重要有形文化財の指定を受け、文化財の保存、継承を第一義としつつ、平成24年度からの文化財予備調査、耐震診断等調査を経て平成27年4月に丹波市民の憩いと交流施設「たんば黎明館」として生まれ変わった。 文化財の新たな活用方法により地域の活性化が期待できる。

6	氷上地域・春日地域で3園の認定こども園が開園 平成18年12月に策定した「丹波市こども園に関する基本方針」に基づき平成27年4月に新たに3園の認定こども園が開園した。 平成27年10月1日現在で、市内6地域のうち5地域（氷上地域は一部）において認定こども園は9園となり、1,620人の子どもたちが幼児教育や保育を受けている。 今後も認定こども園の整備を進め、子どもたちの発達や学びの連続性を踏まえて、幼児一人ひとりの特性に応じた教育・保育の一層の充実を図るための環境づくりに取り組んでいく。 ○ 認定こども園ふたば 「一人ひとりを大切に 心豊かにたくましく生きる子どもを育成する」 ・定員／240人（保育園部 205人・幼稚園部 35人） ○ 認定こども園かすが花の子園 「生きる力と絆を育む」 ・定員／200人（保育園部 150人・幼稚園部 50人） ○ 認定こども園かすが森の子園 「生きる力と絆を育む」 ・定員／220人（保育園部 160人・幼稚園部 60人）
7	人と人、人と自然の創造的交流都市、第2次丹波市総合計画策定 人と人、人と自然の創造的交流都市 ～みんなでつなぐ丹（まごころ）の里～を市の目指すべき将来像と定め、第2次丹波市総合計画を平成27年1月に策定した。 市民との対話と共感を基調とし、将来像の実現に資する政策をまとめ、市民参画と協働のまちづくりや行財政運営の指針としてとりまとめており、各分野の施策展開をすすめるうえで、市民、事業者、行政の役割分担を明確にしたことも特徴の一つとなっている。 基本構想は、平成27年度から平成36年度までの10年間。 基本計画（前期）は、平成27年度から平成31年度までの5年間。
8	空き家の活用、丹波市住まいるバンク設立 空き家の流通促進と利活用を通して移住・定住の促進及び地域活性化を図るため、移住・定住希望者に空き家等の情報を提供し、売却・賃貸希望者及び地域とマッチングする「丹波市住まいるバンク」を平成27年11月末に開設した。また、10月1日から地域おこし協力隊員を1名任命し、住まいるバンクにおけるマッチング支援及び新たな視点を取り入れた移住定住政策との一体的な推進に取り組んでいる。
9	新教育委員会制度、ならびに子ども・子育て支援新制度スタート 教育の政治的中立性、継続性・安定性を確保しつつ、地方教育行政における責任の明確化や市長との連携強化等を図ることを目的にした新教育委員会制度が始まった。 丹波市でも平成27年6月1日付けで教育委員長と教育長を一本化した新たな「教育長」を設置し、新教育委員会制度に移行した。市長と教育委員会で構成する「総合教育会議」を6月11日に開催し、「丹波市の教育に関する大綱」を策定した。今後は、教育条件の整備等重点的に取り組む施策、緊急の場合の措置について総合教育会議で協議・調整を行っていく。 また子ども・子育て支援新制度もスタート。丹波市では、認定こども園における3歳児からの就学前教育、看護師配置支援による病児・病後児保育の充実、アフタースクールの利用対象を小学6年生までに拡大、子育て学習センターにおける利用者支援事業の展開など、市子ども・子育て支援事業計画に沿って事業展開した。
10	未来の森づくり 木の駅プロジェクト始動 丹波市の7割を占める山林内の林地残材を木質エネルギーとして市内外で利活用するため、地域にある里山をそれぞれの地域住民が間伐・集荷・搬出を行い、「NPO法人丹波グリーンパートナー」が材木を買い取る仕組みが「木の駅プロジェクト」としてはじまった。 買い取った材木は薪に加工し、薪ストーブや薪ボイラーの燃料として市内外に供給していくことで、低炭素社会の実現と山の保全の重要性を啓発し、地域資源の活用や地の利を活かした創意工夫によって、地産地消による循環型の暮らしを実現をめざす。 これに関連し、市役所本所（氷上）玄関ロビー内に薪ストーブを設置。 薪ストーブの雰囲気や暖かさなどを体感できる機会を提供し、ストーブの普及を図るとともに環境に対する市民意識の高揚や「木の駅プロジェクト」の取り組みなど広く啓発している。